

全日本女子バレーの強さはどこにあるのか

— 強豪国ブラジルと比較して —

大野 太貴三(生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金森 雅夫

キーワード：女子バレーボール，日本，ブラジル

1. 緒言

日本の女子バレーはかつて「お家芸」と言われ、人気もあるが、低迷が続いていた時期があった。2012年ロンドン五輪で7大会28年ぶりに銅メダルを獲得した。2013年のバレーボール・ワールドグランドチャンピオンズカップでも銅メダルを獲得した。そして2014年のワールドグランプリでは銀メダルを獲得した。

本研究では身体的に恵まれない日本の女子バレーが、再び世界と互角に戦い、メダルを獲得できるまでに成長した強さと、強豪国であるブラジルの練習方法や育成方法を日本と比較しながら、日本に足りていないものを考え、日本のバレーボール競技人口の増加について、地域スポーツの重視という観点から、競技人口の増加策というのをも考察するのを目的とする。

2. 研究方法

キーワードを「日本女子バレーボール」「ブラジルバレーボール」「育成」として、それに関係する資料、文献を収集しまとめた。

3. 結果と考察

1) 日本の女子バレーの強さ

ロンドン五輪で日本の強さの成長が顕著に見られたのは対中国戦であった。それまで五輪ではロサンゼルス五輪で敗れて以来、4連敗していた。その中国に日本はフルセットで勝利した。身長、体格で日本は負けていたが、日本と中国のスパイク決定率、スパイク効果率、サーブ、ブロック、ディグの統計値がほとんど一緒であった。これにより技術面の成長とともに、苦手な相手に競り勝てたという精神面の成長も日本女子バレーの強さの要因である。またグラチャンバレー2013ではMB1、ワールドグラ

ンプリ2014ではハイブリッド6といった日本のチームの特徴にあった新戦術が日本の女子バレーの強さの要因である。

2) 日本とブラジルの育成方法の違い

ブラジルの指導者は、子どもがバレーボールを始める際に「楽しいと感じ、好きになること」を大切にしている。バレーボールをより好きになってもらう様に少人数で練習を行い、常にボールに触れさせる機会を与え、自分の役割を意識させる。ボールに触れる回数が多い分、上達も早い。練習を行う上で、日本ではポジションを固定して練習を行うが、ブラジルはポジションを固定せずに練習を行う。そのため攻撃面、守備面にムラがなく、試合でのミスが減る。

3) バレーボール競技人口の増加策

宮崎県にジョイバレースクールがある。この組織は成長過程を考慮した、保護者にも子どもたちにも有意義、かつ魅力的な活動の提供を目指している。こうした組織を増やすことが、バレーボールをはじめスポーツの普及に繋がる。

4. まとめ

国によって身長や身体能力は差がある。日本のチームの特徴に適した戦術を取り入れることが今後の成長の鍵になる。育成面ではブラジルをはじめ、あらゆる国の育成方法を見習い、取り入れていくことも大事である。また競技人口増加するために、まずバレーボールに触れ、楽しむことが出来る組織作りが必要である。

参考文献

米虫紀子(2009)「ブラジルを最強にした「人」と「システム」」東邦出版。

吉井妙子(2013)『日の丸女子バレー』ニッポンはなぜ強いのか 文芸春秋。